

## 適切な運動部活動の運営に向けて

### 《平成 29 年度「運動部活動等に関する実態調査」～スポーツ庁～》

11 月 17 日、スポーツ庁は、平成 29 年度「運動部活動等に関する実態調査」の速報値を公表した。

この調査は、生徒の健全な成長の促進や教員の業務負担軽減の観点から、運動部活動の運営の適正化に向けて検討を行うため、運動部活動等の活動実態や教員、生徒、保護者等の意識を把握することを目的として行われた。

平成 29 年度「運動部活動等に関する実態調査」の概要（全日教連要約・抜粋）

#### 運動部の主担当顧問教員の部活動に関する悩み（複数回答）

	中学校		高等学校	
	公立 n 4,138	私立 n 283	公立 n 4,370	私立 n 1,513
1.校務が忙しくて思うように指導できない	54.7	59.7	54.0	47.3
2.部活動以外で生徒に向き合う時間がとれない	12.7	13.4	12.1	12.9
3.校務と部活動の両立に限界を感じる	47.9	45.6	43.6	38.7
4.部員数が多い・少ないため活動が難しい	25.6	33.9	26.3	20.9
5.予算不足	16.0	14.1	21.4	19.8
6.顧問・指導者の不足	27.0	34.3	27.7	28.0
7.自身の指導力の不足	45.1	39.6	36.5	32.6
8.部員の能力不足	9.2	13.8	10.3	11.4
9.部員のケガ・病気・疲労	9.6	12.0	9.9	10.0
10.競技志向の生徒と楽しみ志向の生徒の共存	20.8	24.0	14.9	14.1
11.部員とのコミュニケーション不足	5.8	8.1	5.9	6.1
12.意義を見出せない	5.1	5.3	4.4	3.0
13.部員同士の間人間関係	18.9	13.4	11.3	11.3
14.保護者の理解不足・過熱	23.5	13.8	8.6	12.2
15.住民の理解不足	2.5	1.8	1.6	2.2
16.部活動指導員との連携不足・人間関係	4.9	3.2	3.9	4.5
17.活動場所の不足	20.5	35.3	19.5	24.9
18.自身のワークライフバランス	45.3	35.3	38.4	28.5
19.自身の心身の疲労・休息不足	51.8	38.9	42.9	36.1
20.自身の経済的負担	13.5	9.9	15.3	15.9
21.その他	4.5	1.8	4.3	4.4
22.特段の課題や悩みはない	3.8	5.7	4.3	6.9

- 中学・高等学校とも、「校務が忙しくて思うように指導できない」「校務と部活動の両立に限界を感じる」の、校務と部活動のバランスに関する項目が高い。
- 中学・高等学校とも、「自身のワークライフバランス」「自身の心身の疲労・休息不足」の、心身の健康等に不安を感じる項目が高い。
- 中学・高等学校とも、「自身の指導力の不足」の項目が高い。特に公立の中学校では顕著である。
- 公立の中学校では、「保護者の理解不足・加熱」の項目が、他の校種と比較して非常に高い。

### 学期中における平日の運動部活動の活動日数について

	中学校		高等学校	
	公立 n 26,649	私立 n 2,016	公立 n 16,998	私立 n 4,902
1.0日	0.9	1.6	1.1	1.4
2.1日	0.7	1.7	0.7	2.3
3.2日	1.2	19.6	1.0	4.7
4.3日	4.1	18.9	3.3	13.1
5.4日	41.2	39.0	30.6	32.3
6.5日	52.0	19.1	63.3	46.2

○ 公立中学校では、約5割の学校で5日（毎日）部活動が行われている。

### 学期中における平日1日当たりの運動部活動の活動時間について

	中学校		高等学校	
	公立 n 26,462	私立 n 2,003	公立 n 16,863	私立 n 4,861
1.0～1時間程度	1.7	2.6	1.4	1.4
2.1～2時間程度	25.6	41.5	20.8	21.7
3.2～3時間程度	46.3	35.6	47.0	34.5
4.3～4時間程度	21.6	15.1	21.1	25.6
5.4～5時間程度	3.9	3.8	7.3	12.2
6.5時間以上	1.0	1.4	2.4	4.6

○ 公立中学校では、「2～3時間程度」と答えた割合が約5割、「3～4時間程度」と答えた割合が約2割に上る。

詳しくは、

[http://www.mext.go.jp/sports/b\\_menu/shingi/013\\_index/shiryo/\\_icsFiles/afieldfile/2017/11/20/1398467\\_01\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/sports/b_menu/shingi/013_index/shiryo/_icsFiles/afieldfile/2017/11/20/1398467_01_1.pdf)

今回の調査結果から、運動部活動を受けもつ多くの教員が、様々な悩みや不安を感じながら、日々の部活動指導に追われていることが明らかになった。特に約5割の教員が、部活動に意欲をもって指導に当たろうとしているが、校務とのバランスに苦慮し、自身の指導力不足に不安を感じている状況である。また、平日においても約5割の運動部活動を受けもつ教員が、ほぼ毎日2～3時間程度部活動指導を行っているが、これに休日に行われる練習や対外試合等を含めると、1週間の部活動の時間は長大になり、教員自身の心身の休息をもつことはもとより、教材研究等を行う時間も縮減され、教育の質の担保も保てなくなるおそれもある。更に、保護者に対して部活動運営について理解を求めることに教員が苦心している状況も見られ、改めて部活動運営の難しさが浮き彫りになった。

教員の負担軽減や常態的な長時間勤務の是正、適正な部活動運営のためには、部活動指導員が必要な学校において、適切に配置促進されることが不可欠である。また、今年度内に示されるガイドラインにおいては、生徒の身体的な負担軽減等も含め、平日及び休日の活動日数・活動時間が制限され、各学校において厳守することを求めることが重要である。更に、部活動を担当する教員には、その競技等における指導力向上のための研修やそれに係る交通費等は支給されていないため、部活動指導業務手当の充実も求められる。

これまで部活動は、生徒指導等においても様々な成果を上げてきた。それ故、部活動は、教育課程外の活動であるにも関わらず、学校教育において重要な教育的意義をもち、生徒、保護者の意識の上でも学校生活の中で大きなウェイトを占めている。中学校・高等学校の教員の働き方改革においては、特に部活動の運営に対して適切な指導體制の整備を行うことが求められる。全日教連は、適正な部活動運営が図られることにより、教員の心身の健康の保持・増進が図られ、教員が子供の抱える様々な課題等にしっかり向き合う時間を確保できるよう、策定されるガイドラインや国の動向に注視し、真の働き方改革につながるための要望を引き続き行う。

